

授業概要

学校臨床心理学の講義では、学校現場で求められる心理学的支援の基礎的知識について学びます。そのうえで、児童・生徒、保護者、教職員、スクールカウンセラー等様々な視点に立ちながら理解を深めていきたいと思ひます。

今日の学校臨床は、いじめ・不登校・非行等の実践的な課題の対応を迫られています。これらの課題は、単一の理論や対処療法では解決することが困難です。そのため、学校臨床心理学の意義と役割を明らかにし、理論と実践について理解を深めていくようにします。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	学校臨床心理学とは（学校教育と心理臨床の相違と相補性）
第3回	子どもを理解するための基礎・基本
第4回	学校臨床心理学の展開1 ー生徒指導に活かすー
第5回	学校臨床心理学の展開2 ー教育相談に活かすー
第6回	学校臨床心理学の展開3 ー特別支援教育に活かすー
第7回	学校臨床心理学の実際1 ー予防・開発的支援ー
第8回	学校臨床心理学の実際2 ー不登校ー
第9回	学校臨床心理学の実際3 ーいじめー
第10回	学校臨床心理学の実際4 ー非行ー
第11回	学校臨床心理学の実際5 ー軽い障がいをもつ子どもへの支援ー
第12回	学校臨床心理学の実際6 ー自殺予防ー
第13回	連携と守秘 ー支援者の抱え込みを防ぐためにー
第14回	保護者への心の支援（保護者の視点に立って検討します）
第15回	教職員のメンタルヘルス（教職員の視点に立って検討します）
第16回	レポート提出

到達目標

教育現場の様々な事例を通して実践的に学び、また、問題を抱えた児童・生徒への援助方法だけでなく、成長・発達への集団援助の方法についても理解を深めるようにします。

履修上の注意

学校では不登校・いじめ・非行など深刻な問題が山積しています。これらの課題について現状を正しく理解するために、受講生の皆さんから積極的な意見を求めたいと思ひます。情報を収集するだけでなく、こうした問題に積極的に関心を持っていただきたいと考えています。

予習復習

予習・復習（それぞれ1時間）の便宜を図るため、資料は毎時間配布します。リアクションペーパーの質問コーナーに質問していただければ、翌週、必ず応えます。講義の予習・復習になりますので、積極的に活用してください。

評価方法

授業内レポート（毎回提出するリアクションペーパーへのコメント、講義への参加意欲等）30%、定期試験70%で評価します。

テキスト

杉山雅宏編著「学校心理学を活かした生徒指導・教育相談」青山社（近刊）
毎時間、必要に応じて、プリントを配布する。